

社会民主党機関紙

NO.96
熊本県版

社会新報

THE SHAKAI SHIMPO

2026年秋号

(曜日) 号外

発行所

社会民主党全国連合機関紙宣伝局

通刊(本曜日発行)

〒104-0043 東京都中央区湊3-18-17マルキ熊本ビル5F

電話代表 03(3553)3787・振替 00140-1-3203

●定価185円 ●1ヵ月720円 ●送料168円



命を守る防災国家へ、今こそ転換を！

原爆投下81年・益城町街頭演説

橋村りか副党首が訴え

2026.8.6

益城町

惣領交差点

熊本再被災の悲痛、被災者に寄り添わぬ政治に憤り

軍事費増大よりも命を救う支援体制の確立を

8月6日午前8時15分、蝉しぐれが響く熊本地震の被災地・益城町。社民党の橋村りか副党首は、通行人や働く市民に呼びかけ、広島へ原爆が投下された時刻に合わせ全員で黙祷を捧げた。

広島原爆投下から81年目となるこの日、橋村副党首はマイクを握り、「81年前の今日8月6日も、同じように青空が広がっていました。しかし、人々の日常や子どもたちの未来が一瞬にして地獄と化した。世代を超えて悲劇を繰り返させないと声を上げる被爆者の痛みを、いま私たちがしっかり受け止めなければならない」と力強く切り出した。

「戦争のための繁栄」への強い疑問

演説の中で橋村副党首は、戦争や軍事産業の進歩が豊かな生活をもたらしたとする言説に対し、「その影で奪われた何十万、何百万という無辜(むこ)の命、奪われた将来があったことを忘れてはならない」と強く反論。失われた命が生きていられたなら、どれほど心豊かな、お互いの命を尊重し合える社会ができていたかと問いかけた。

熊本地震から10年、

再被災地現場からの悲鳴

7月28日に熊本を再び襲った大地震にも触れ、自らも10年前の熊本地震で自宅が全壊した当事者として胸中を明かした。「10年前の教訓を生かし、同じ思いをさせない社会

硬い床に臥せり、満足な食事や水も得られない被災者の窮状を訴えた。

さらに、被災地を視察に訪れた高市早苗首相の対応について厳しく批判。「首相が訪れる避難所に、訪問前日(2日)になって段ボールベッドが搬入されたと聞いている。要人が訪問するタイミングになってようやく環境整備が進む状況からは、日頃からの備蓄や初動での物資供給の遅れという課題が浮かび上がる。どこの避難所にいる被災者にも、発生直後から迅速に必要な資材が行き届く体制が必要です。上空のヘリから地上へ手を合わせる姿ではなく、酷暑の中で懸命に生きる被災者の惨状をその目で直視し、政治の無策を思い知ってほしかった」と憤りを隠さなかった。

社会新報熊本県版のバックナンバーは下記のアドレスからご覧いただけます

<https://drive.google.com/drive/folders/11kSLR5PZfthSPRXuYGNqYfXVElt2G-6?usp=sharing>



大軍拡ではなく

国際的にも「命を救う防災・支援の国」へ

政府が進める防衛費の急増と「抑止力」論に対しては、「武力を備えた足元には国民が暮らしている。他国への牽制は、国民を“命の盾”にしているに等しい」と断罪。断層上に位置する原発や、有事の際に軍事拠点となりかねない半導体工場などを抱える日本は構造的に「戦争に向いていない国」とであると強調した。

その上で、橋村副党首は日本が指針とすべき「平和と国際貢献のあり方」を提示した。「自衛隊を批判しているのではない。10年前の熊本地震の際、自衛隊の方々が温かいお風呂や食事を提供し、命を救ってくれたからこそ、私は感謝している。だからこそ隊員自身の命を守りたい」と強調。

他国を攻撃するための兵器を増やすのではなく、地震などの自然災害が起きた際に国内外へ真っ先に駆けつけ、人の命と暮らしを救う「防災・救助の専門的な役割」こそを日本のシンボル(平和外交の誇り)にすべきだと訴えた。

共に助け合う社会の構築を誓う

最後に橋村副党首は、「大きな傷を負った益城町や被災地を、もう一度お互いに支え合いながら復興させていこう。この8月6日という日に、私たちが何を守り、何のために政治があるのかを共に考えたい」と呼びかけた。演説終了後、橋村副党首は被災した子どもたちの支援施設へ物資を届けるため、直ちに街頭を後にした。

【サイドコラム／取材者の目】

「命を守る政治」への原点がここにある

益城町の街頭で語られた橋村副党首の言葉には、自らが熊本地震の被災当事者であり、現場で人々に寄り添い続けてきたから

こそその圧倒的なリアリティがあった。軍事費増大へ傾斜する国政に対し、災害大国・日本において真に必要なのは「人の命を救い、暮らしを守るシステム」であるという指摘は、いま避難所で苦しむ人々の姿と重なり、深い説得力を持つ。8月6日という節目の日に、防衛や平和のあり方を「上空からの視線」ではなく「地上の市民の目線」から捉え直す重要性を強く再認識させられた。

大きな傷を負った
益城町や被災地を、
もう一度お互いに支え合いながら
復興させていこう。
この八月六日という日に、
私たちが何を守り、
何のために政治があるのかを
共に考えたい



2026年熊本地震 支援金にご協力を

【郵便振替】00180-4-602982
口座名: 社民党・災害救援カンパ
(*通信欄に「熊本」とお書きください)。
【ゆうちょ銀行】
支店: 〇一九(ゼロイチキュウ)店
口座番号: 0602982
名義: 社民党・災害救援カンパ
(*メッセージ欄に「熊本」とお書きください)